

オンライン会議ツール「Zoom」の授業での活用について

ギンター 知枝
徳島大学教養教育院 非常勤講師

1. Zoom とは

Zoom(<https://zoom.us/>)とは、Skype のようなオンラインコミュニケーションツールの一つである。私は「反転授業の研究」Face Book グループで行われていた月1回のオンライン勉強会で、初めてZoomを体験した。

Zoomには、登壇者のコンピューターのファイルや動画を画面共有したり、ホワイトボードに全員で同時に書き込んだり、チャットを使って、発表を聴きながら視聴者同士で情報共有したり、さらには数人ずつの小グループに分かれてディスカッションした後にも全員で集まって各グループの話合いの内容を全体で共有する、など、便利な機能があり感銘を受けた。1度に100名まで参加でき、パソコンの場合、1画面に25人の顔が映し出される。チャットやホワイトボードの内容を保存することもできるし、会議全体を録画することも可能だ。その上、データが軽いため接続が安定している。

2. 授業内外でのこれまでの活動

Zoomを使った私のこれまでの取り組みをあげてみる。

①まず、録画機能を使った教材作りである。Zoomは会議ツールであるが、一人でログインして画面共有しながら解説し、それを録画することで簡単に動画教材を作成することができる。

録画内容は、YouTubeの自分のチャンネルにアップロードして限定公開しておくことで、あとで学生にURLを配布して視聴させることができる。

動画で解説することで、学生が自分の好きなタイミングで何度でも視聴することができるというメリットがある。

②次に、オンライン講座の開催についてだが、これは「反転授業の研究」FaceBookグループ主催の講座の運営でスタートし、その他、コーチング講座やコロンビアよりオンラインで講師が参加するNVC(非暴力コミュニケーション)講座など、様々な講座の運営に関わった。

講座自体は、事前課題動画を視聴して臨む反転授業形式のものから、講師が毎回レクチャーし、ワークショップ形式で進めるものなど様々

であったが、どれも、Moodleやチャットワークなど、何らかのラーニングプラットフォームを利用して、そのプラットフォーム上に動画のリンクを貼ったり、受講者同士の交流の場を設けたり、講師や運営スタッフへの質問ができるようなスペースを用意したりした。

脱落者の発生を防ぐために、毎週Zoomで「雑談ルーム」を開催し、講座の内容以外の話題で個人的な交流を深めることができるようにしたり、ラーニングプラットフォームへの受講者の投稿に、講師や運営チームがコメントをつけて回ったりすることで、脱落者ほぼゼロを達成できるようになっていった。

Zoomを使ったオンラインの授業では、講師が世界中どこにいても開催が可能であることや、入院中でも病院から参加が可能であることなど、たくさんのメリットがあることがわかった。

③また、2017年の夏には、東京で開催された「未来の先生展」という教育系のイベントで、「反転授業の研究」FaceBookグループの主催者である田原 真人氏と数人でチームを作り、反転授業の元祖であるアメリカのジョナサン・バーグマン氏とコンタクトをとり、会場とアメリカのバーグマン氏をZoomでつないで、オンラインの参加者も交えてこれからの教育についてディスカッションを行った。

会場でも、オンライン側でもグループに別れてディスカッションを行い、後で会場のグループからもオンラインのグループからも話合いの内容をシェアしあってインタラクティブな交流ができた。

④その他、授業では、薬学部2年の学生を対象に、学生にはZoomのアプリを事前にダウンロードさせておいて、私の友人で薬剤師の女性をZoomで招き、全員教室でスマホでオンラインで彼女の話聞き、質問する、という機会を設けた。

これは、Zoomには無料アカウントのプランがあり、うまく利用することで活動範囲が広がることを学生に認識してもらうために行ったものである。その折には、一人でログインして録画しながらスピーチやプレゼンテーションの練

習をする、などという使い方があることも伝えている。

⑤また、授業にオンラインで参加してくれた友人にお礼するためにオンラインでパステル画を描くワークショップを行った。これは、パソコンに接続した Web カメラで手元の画用紙を写し、Zoom で解説しながら描き進んでいくという方法で、普段であればなかなか詳しく見ることができない講師の手元をカメラで大写しにできるという利点を強く感じるものだった。

また、後から描き方を見返すことができるように、友人のパソコンに録画できるように Zoom 側で録画許可を与えて、録画してもらった。

⑥そのほかにも、Zoom で録画して作成した発音の解説動画を YouTube にアップロードし、その URL を配布して授業中にスマホで全員に視聴させてノートにまとめさせ、それを参考に教科書の文章に発音の振り仮名をつけさせる試みも行った。

発音などは、教室で座っている位置などによって教師の手本が聞き取りにくかったり、人によって何度で聴き取れるかにも差があるので、動画で自分のペースで学ぶ意義があると考えている。

3. Zoom の可能性

Zoom の機能は、世界中から優秀な学生が集まるが全ての授業をオンラインで行うミネルバ大学で使用されている「アクティブ・ラーニング・フォーラム」という独自のラーニングプラットフォームの持つ機能に非常に近いものである。

ミネルバ大学の「アクティブ・ラーニング・フォーラム」は、それひとつで事前課題の視聴、課題提出、授業の録画や出席状況の管理などができるようになっている。非常に優秀なシステムではあるが、初期導入に数億円を要するなど、そのままの導入はハードルが高い。

しかしこれは、ちょうど Zoom と Edmodo (<https://www.edmodo.com/?language=ja>) という先生向けのラーニングプラットフォームを足したような機能を持っており、これらを組み合わせることで、かなり近いものを作ることが可能であると考えられる。

Zoom を使って様々な活動をしてきてわかったことは、実際に同じ空間にいないと実習などをのぞけば、かなりの授業がオンラインで実施可能だということだ。

猛暑の中、暑い教室で朦朧としながら授業を受けなくとも、安定したインターネット環境と

PC、タブレット、スマホさえあれば、自宅や外出先から参加することができる。（これは会議についても同じことが言える）

大学側は、教室の確保や冷暖房費を節約でき、講師や学生は移動時間を節約することができる。

また、実験を伴う授業などでも、教師が実験を行って見せる場合には、手元をよく見るにはカメラで大写しにした録画の方が適している場合も多くあると考えられる。これであれば失敗することもない。

これから少子化が進み、大学の縮小が進んでいく中で、オンラインを実際の講義と組み合わせたカリキュラムの検討が、多くの課題に答えを与えてくれるのではないだろうか。

参考文献

- 1) 田原真人 著：Zoom オンライン革命！、秀和システム(2017)
- 2) 山本秀樹 著：世界のエリートが今一番入りたい大学ミネルバ、ダイヤモンド社(2018)